

優しく強い子に！



11月19日(金)の部分月蝕

始まりは16:04。月蝕の最大は18:02。終わりは19:07でした。矢上は18:20頃に観て、左の写真を家の門のところから撮りました。みなさんは観ましたか。観ながら“どうして月蝕はおこるのかな”と考えた子はいますか。おうちの人に質問した子がいるかもしれませんね。そういう子は小さな科学者と言えるのです。

<http://www.minamih.net/>
21・11・25(木)
南NEWS no 90

部分月蝕 目の前でおこっていることを観て“どうして、なぜだろう”と思うことが科学の始まりなのです。

サッカーも科学できるかもしれませんね。



『わくわく理科』 藤本拓郎著 大月書店
科学の世界にロマンを p.135～137

人間は生まれつき科学者になれるようになっており、子どもは小さな科学者なのです。子どもは、自分が科学者のように自然の仕組みを解き明かそうとしたり、自然の一部を自分のイメージしているように作りかえようとしていたりしているのだということがわかれば、その目標に向かって夢(ロマン)をもちます。

人は、自分がわからないことがあると、「ああではないのか、こうではないのか」と想像を働かせます。こうであつたらいいのにといった期待ももちます。そのことを解き明かしていくことを、嫌いな人はいません。子どもも同じです。小さな科学者となって、もてる力を精いっぱい働かせて自然に挑戦していきます。そのときの子どもの気持ちは、とてもロマンに満ちているのではないでしょう。

こんな経験をすることによって、科学は面白く、楽しいものであることがわかってきます。理科の教科書などに書いてあることを、ただ覚えるだけでは、科学の面白さ、楽しさはわからないだけではなく、逆にどんどんつまらないものになっていきます。

小さな科学者となって、自分で何かを見つけること、おや？不思議だな！と思ったことを、どんどん見つけ出していくことができるようになることを、大切にしたいものです。そして、自分の目で見つけ、解決していくために必要な知識を、子どものものにしていくことが大事です。

そのために、本に書いてある知識を知ったり、学校や家庭で、大人から知識を教わったりすることが必要となってくるのです。いくら自然に働きかけようとしても、何か問題になることを見つけ、それを解決していきけるだけの知識がなければ、何も見えてきません。その知識を小学校の段階から、身につけていくようにさせたいと思います。

このような活動をして、子どもは一つひとつの自然の仕組みのベールをはがしていくように、事実立脚した知識を身につけていきます。そして、一つの問題を解決すると、その知識をもって見る自然の仕組みのなかに、また新しい問題が見えてくるようになります。この積み重ねが、自然をより深く、詳しく知っていくことにつながっていくのです。このようにして、子どもたちは、自分と関わっている自然の世界を広げていきます。

※2021年の行事も

- 12月11日(土) 葉山との交流
- 12日(日) 南6年生招 (1年生市民スポーツ大会決勝)
- 19日(日) 葉山5・5年生招待
- 25日(土) 南納会

と4つ(5つ)を残すところになりました。楽しく、良い締めくくりができればと願っております。



12月12日(日)の南6年生招待の組み合わせ・時程です。いつもの富士見ヶ丘と西原が東京都リーグと重なって参加できません。コロナの影響です。

10.組み合わせ 6年

	南八王子	北烏山	葉山緑	勝ち点	得失点差	総得点	順位
南八王子		①	③				
北烏山			⑤				
葉山緑							

	白百合	愛宕	葉山白	勝ち点	得失点差	総得点	順位
白百合		②	④				
愛宕			⑥				
葉山白							

◎試合時程

◎予選リーグ

- ① 9:00 北烏山 VS 南八王子
- ② 9:40 白百合 VS 愛宕
- ③ 10:20 葉山緑 VS 南八王子
- ④ 11:00 葉山白 VS 白百合
- ⑤ 11:40 北烏山 VS 葉山緑
- ⑥ 12:20 愛宕 VS 葉山白

◎決勝戦・順位戦

- ⑦ 13:10 A3位 VS B3位
- ⑧ 13:45 A2位 VS B2位
- ⑨ 14:30 A1位 VS B1位

◎閉会式 15:20

審判



審判



